



県内最初の男性保育士

とも おか よし ひろ 友岡 善寛 さん

父が開所した白崎保育園を「手伝わぬか」と誘われたことが保育士になったきっかけです。元々、子どもが好きだったこともあり特に迷いはありませんでしたが、当時は男性が保母（現・保育士）試験を受けることはできませんでした。

昭和52年に男性の受験が法的に認められてから、保母資格の取得を目指し講習会に参加。女性の参加者しかおらず肩身が狭かったこともあり、ロビーでスピーカーか

ら流れる講師の声をカセットテープに録音し、それを聞いて試験勉強をしていました。

それでも学科試験は合格するところができましたが、実技試験のピアノには今まで触れたこともなかったもので、まったく演奏することができません。何とか試験に出やすい曲を暗記し試験に臨みましたが、最終的に合格できたのは7回目の試験の時。試験を受け始めてから3年以上経過してしまいました。新聞に掲載された合格者の

名前を見た時はとてもうれしかったことをよく覚えています。

その後、数年のクラス担任を経て園長に就任。現在は理事長という立場から、得意のレクリエーションを通して年齢に応じた遊びを子どもたちと行っています。特に近年は、私の集大成だと思つてこれまで培ってきた経験をすべて子どもたちにつづける気持ちで、レクリエーションに取り組んでいます。

保育士の仕事の楽しさは、何よりも多くの子どもと関われることにあります。もちろん楽しさだけではなく大変な面もありますが、一人ひとり性格や家庭環境の異なる子どもと向き合い、子どもの発達や将来どんな道に進むかを見届けられることにやりがいを感じています。

これからも子どもたちと向き合いながら、自分らしい幼児教育・保育を少しでも多くの子どもに提供できるように頑張ります。

information

垂水市出身。鹿屋高校を卒業後、福岡大学工学部で電子工学を学び、加治木工業高校で教職に就いた経歴を持つ。趣味はドラマやプロレスを見たり、車でドライブに行ったりすること。



【左】園庭での様子。子どもには人とのつながりを大切にしてほしいため、物で遊ぶよりも友達や親とたくさん触れ合いながら遊んでほしいと語る。

【右】昭和56年の様子。当時、鹿児島県児童家庭課が認知していた保母資格を有する男性は県内に2人だけだった。
(南日本新聞昭和56年9月27日掲載)